

平成 21 年度くぬぎ山地区県有地自然環境調査 概要報告

1 調査目的・内容

- (1) くぬぎ山地区県有地の現況植生及び動物調査
- (2) 調査地の一部について、「平成 15 年度雑木林再生モデル事業」によって実施された刈払いの効果検証

2 調査結果

(1) 植生及び動物調査

ア 植生

229 種の植物種を確認した。

優占高木としてコナラ、ヤマザクラ、アカマツが存在する。

一部、高木層の生育が悪い場所では、落葉小高木のエゴノキやリョウブ、常緑のシラカシ、アラカシ、ヒサカキが密生している。

希少種として、レンゲツツジやシュンラン等が確認されている。

イ 動物

哺乳類はホンダタヌキ、アズマモグラの 2 種、爬虫類はトカゲ、カナヘビ、シマヘビの 3 種を確認した。両生類は確認されていない。

鳥類は関東地区の平地林に生息する一般的な 23 種を確認した。希少種として、トビ、オオタカ、エナガ、ヤマガラが確認されている。

昆虫類は 206 種を確認した。希少種として、シロスジカミキリ、ジャノメチョウの 2 種が確認されている。

(2) 刈払いの効果検証

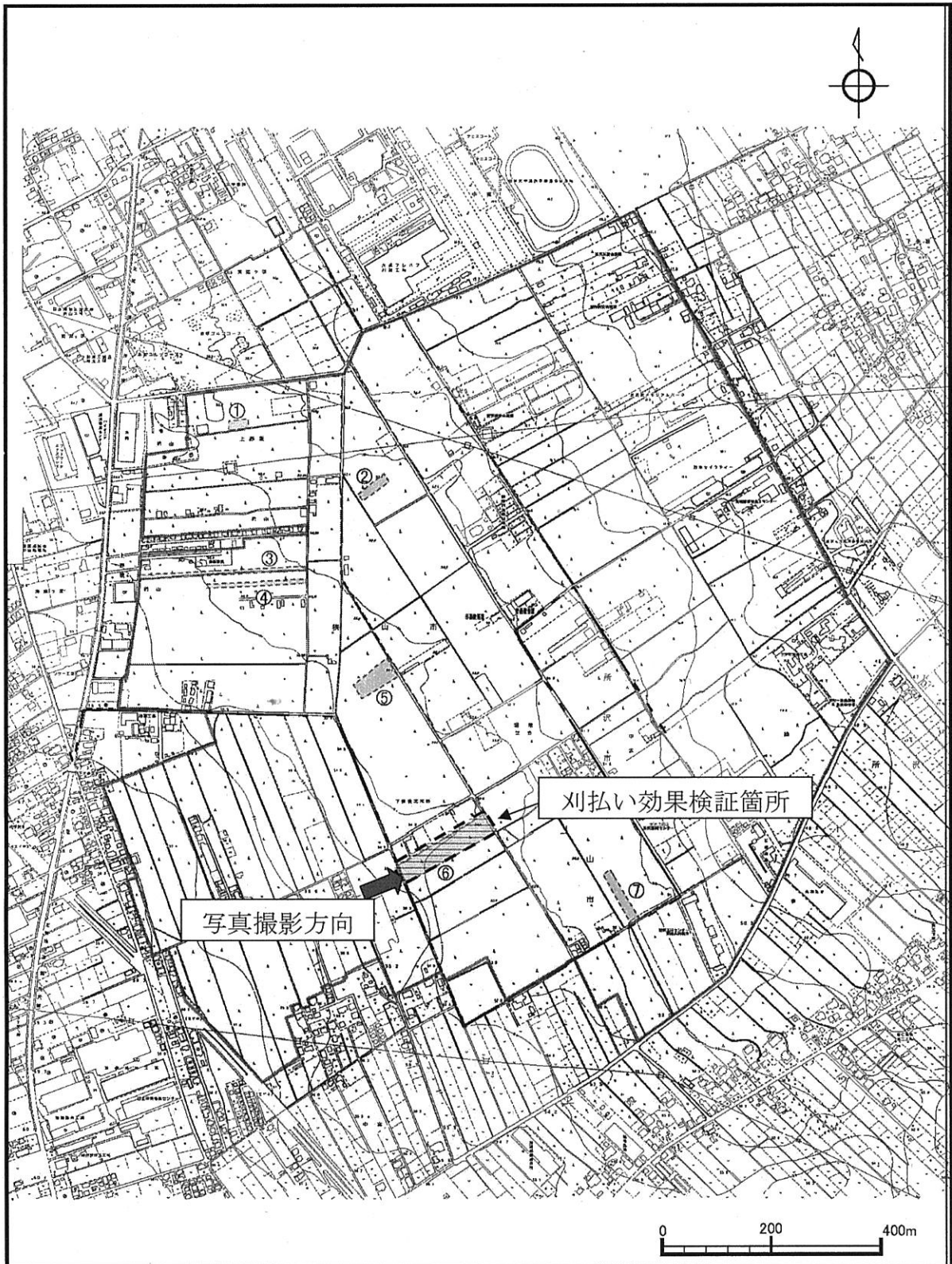
調査地⑥（別添位置図参照、面積 6,930 m²）について刈払いの効果検証を行った。

平成 15 年度に実施した刈払前の調査では、114 種の植物種が確認されていたが、今回は 167 種が確認された。刈払いにより日照条件が変化し、多様な植物が出現したものと考えられる。

当時、低木層に優占していたヒサカキやリョウブが刈払われ、林内が明るくなったため、残置したコナラやヤマザクラが成長して高木層を形成するとともに、低木層の優占種が陽樹のヤマウルシに遷移した。ただし、林内にはシラカシの成長も確認されており、今後刈払いを実施しなければ常緑広葉樹林へ遷移するものと考えられる。

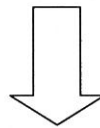
なお、東側の一部の草地では、刈払われたススキやセイタカアワダチソウが再び生育している。さらにつる植物のクズが繁茂し始めており、放置すると他種の成長を阻害するおそれがある。

調査地位置図 (全7箇所)





H16.3 撮影



6年後



H22.4 撮影